

# 赤坂

学力特集号

平成30年10月23日  
北九州市立赤坂小学校  
校長 梶原 秀朗

【学校教育目標】

自ら学び考え、心豊かで、  
心身ともに健康な児童の育成

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語A	記録や報告の文章、図鑑や辞典などを読んで利用する体験が必要であること、情景描写を基に登場人物の相互関係や心情を捉えるなど文章を読み取る力を高めること、文の中で正しく漢字を使うことなどが課題である。
国語B	記述式の問題において、3問中2問の正答率が全国を上回るなど児童の「書く力」が向上していることが伺える。複数の情報を関連付けて読む、事例を挙げて書く、情報を適切に関係付けて書く、他のものと比較して書く力を付けることが課題である。
算数A	これまで本校の課題であった図形領域に関する設問や円周率の意味理解に関する設問の正答率が全国平均を上回った。計算の意味の理解を基に演算決定をする、180度より大きな角の測定、グラフを読み取る力を付けることが課題である。
算数B	数学的な考え方を高めることが本校の重点課題である。特に、図形の構成要素や性質の理解、敷き詰め模様の図形の観察と論理的な考察・表現、複数の情報を関連付けて解釈し、考え表現する力を高めていくことなどが課題である。
理科	予想を立てたのち、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験が構想できる、実験結果を基に分析して考察し、その内容が記述できる、複数の情報を基にした分析ができる等の力を付けていくことが課題である。

### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"><li>・「将来の夢や目標をもっている」児童の割合が低いと、自分の将来をしっかりと見つめさせ目標設定をさせる必要がある。</li><li>・児童の自己肯定感をさらに高め、「自分にはよいところがありますか」「人の役に立ちたいと思いますか」の問いに肯定的な回答をする児童を100%に近づけたい。</li><li>・「朝食を毎日食べている」、「家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話をしている」児童の割合が全国と比べても低いため、家庭との連携を図り改善していく必要がある。</li><li>・算数科の学習においては、「算数の勉強は好き」と答えた児童の率は全国平均を上回っている。また、「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか」「算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」の問いに肯定的な回答をしている児童が多い。これは、算数科学習を本校の主題研究として、重点的に取組を進めてきた成果であると考えられる。</li><li>・「家で学校の宿題をしている」と回答した児童の率は、97.3%と高く全国平均を上回っている。しかし、「学校の授業時間以外に1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」の問いに、「普段(月～金)では、1時間以上すると回答した児童は、38.8%で全国と比較してかなり低い。</li></ul>

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・「文章を読む力」「言語の力」を高めるために、朝自習時間に従来通りの読書タイムに加え、漢字フラッシュカードの活用や国語チャレンジタイムを取り入れる。また、日常的にひまわり音読練習に取り組み、成果を発表する場として「音読コンクール」を実施する。
- ・毎日、5校時の始まる前に算数チャレンジタイムを実施する。
- ・赤坂方式のノート指導の徹底および学習活動の中に自分の考えを書く場面を設定するなど、「書く」ことの習慣化を図る。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・「北九州市 子どもを育てる・子どもの誓い10か条」の啓発及び実践を図る。基本的な生活習慣を身に付けさせ、毎朝、笑顔で登校できるようにする。
- ・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用等を通して、宿題以外の学習に、計画的に取り組む習慣(学年×10分の時間を目安とする)をつけさせる。
- ・家庭との連携を図り、家の人と学校での出来事について、毎日話をする習慣を付けさせる。
- ・中学校区で教員が相互に授業参観等する中で、学習のきまり等を作成して共通理解を図り、学力の向上を図る。